

令和元年5月29日現在

機関番号：17701

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K11453

研究課題名(和文) エスノグラフィーを用いた歯学コミュニケーション教育プログラムの開発

研究課題名(英文) Development of a dental education program of the communication using an ethnography

研究代表者

松本 祐子 (Matsumoto, Yuko)

鹿児島大学・医歯学域附属病院・助教

研究者番号：20315443

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：医療者に不可欠な資質としてコミュニケーション能力がある。多様な背景を持つ幅広い年齢層の患者・家族と良好な関係を築き、適切な医療や支援を提案し提供するためには、歯学生のうちから地域社会に参加し、他者理解の視点を修得する必要がある。本研究では、社会科学の質的アプローチであるエスノグラフィー手法を用いた実践的な歯学教育におけるコミュニケーション教育プログラムを構築し実施した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

歯学教育におけるコミュニケーション教育の一環として、他者理解の視点を獲得することを目的に、学生が実際に地域の人々を対象にエスノグラフィーを実践する教育プログラムはなく独創的である。他者理解の視点を獲得するためには、さまざまな背景を持つ人々と積極的に関わる必要があり、低学年にプログラムを履修することにより段階的に実践的なコミュニケーション能力の向上の機会が得られる。将来的には地域医療に求められる患者に寄り添う医療を実践できる歯科医療者の育成に貢献できる。

研究成果の概要(英文)：Communications skills are essential qualities to a medical staff. The dental student needs to learn the viewpoint of others understanding by participating in a community, in order to propose and offer suitable medical treatment and support, and build a good relation with the patient and family with various backgrounds in a broad age group. This research is to construct and carry out a practical dental education program of the communication using an ethnography.

研究分野：歯科医学教育

キーワード：エスノグラフィー 観察記録 歯学コミュニケーション教育

## 様式 C-19、F-19-1、Z-19、CK-19（共通）

### 1. 研究開始当初の背景

歯科医学教育では、モデルコア・カリキュラムの導入と共用試験歯学系 OSCE や臨床実習終了時実技試験の実施等もあり、対人/ヘルス/医療コミュニケーション教育が実施され始めていた。同様に地域基盤型教育も、社会と歯学、地域医療等についての学士課程教育での実施が求められた。各教育機関では、特色を出した独自のカリキュラムを構築していたが、縦型あるいは螺旋型のカリキュラムとして実施している施設はまだ少数であり、研究代表者の所属機関においてもカリキュラム改革の過程にあった。

他者理解、人間関係、患者－医療者関係、病気・健康観、多職種連携等は医療系教育で必須の内容であるが、「他者理解・人間関係」の開講状況は医学系大学、看護学系大学のほとんどで教養科目の選択科目であると報告されていた。

質的アプローチの研究手法であるエスノグラフィーは、「現場」を理解するための方法論として、近年医療分野にも広く用いられ、主に参与観察とインタビューによってデータ収集するが、基本となるのは参与観察である。単に「見る」ことではなく、現場に入り込み、何らかの形で活動に参加し、人々とかかわりあい様々な体験をしながら対象にアプローチすることであり、ここで得られた気づきにより自らの先入観を修正し、新知見を得ることにつながる。

「他者理解」「共感」能力向上に有効な新しい方略としてエスノグラフィー手法を用いたコミュニケーション教育プログラムを開発し、所属機関の新カリキュラム導入を目指した。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、医療者に必要な他者理解の視点や方法の修得手段として、質的アプローチのひとつであるエスノグラフィー手法を用いて、実践的で効果的な歯科医学教育におけるコミュニケーション教育プログラムを開発・導入することである。

### 3. 研究の方法

#### (1) ニーズ調査

研究者らの先行研究①②から、離島の人々および現場歯科医師のニーズについて分析した。

①離島巡回診療が行われている離島在住者を対象とした無記名式アンケート調査。

②鹿児島県歯科医師会に所属する開業歯科医師を対象とした無記名式アンケート調査。

#### (2) 研究者のエスノグラフィー研修

研究者らはアドバイザーのもとでエスノグラフィー手法を学んだ後、フィールド調査に離島（徳之島、与論島、種子島）および市内の歯科診療所を訪問し、参与観察後、歯科医師への半構造化インタビューを実施し質的分析を行った。

#### (3) トライアルプログラムの実施

研究に協力する参加学生5名を募り、観察記録の実施と他者理解尺度を測定した。学生にエスノグラフィーについてテキストで説明後、30～60分程度の出来事を観察し詳細に記述する観察記録を実施させた。観察記録には「観察目的・場所・対象・期間・内容・感じたこと」を含むように指導した。観察記録実施前後に他者理解尺度を測定し比較した。

#### (4) 教育プログラムの開発と実施

地域の幼稚園施設と高齢者施設それぞれ4施設の計8施設を協力施設として開拓し、2年次の全学生が幼稚園と高齢者施設の計2施設を3日間ずつ訪問する実習科目を新設した。実習では1人の園児、1人の高齢者と連続的に生活に関わり、相手を観察し（参与観察）、相手を理解する行動や多様な年齢層との人間関係の築き方を学び、相手に自己を投影することにより、自分自身の行動の振り返りを促すことを目的とした。実習終了後に学生対象のアンケート調査を実施し分析を行った。またトライアルとして他者理解度を含む対人チェックリストを実習前後に測定し比較検討した。

### 4. 研究成果

#### (1) ニーズ調査

①鹿児島県離島の歯科医療に対するニーズ

回答者(n=513)の7割が「治療の必要性がある部分はすべて治療し、治療後の定期検診も受けた」と回答したが、実際の歯科医院の通院頻度は半数が「症状がある時のみ」、2割弱は「〇年以上行っていない」であり、島民の理想と現実のギャップが認められた。島外での受診は時間と費用面から難しく、島内で完結する歯科医療体制が求められていることが明らかとなった。

## ②地域歯科医療教育に対する現場のニーズ

現場の歯科医師(n=140)が考える「将来の地域歯科医療を担うために欠かせない医療者の資質」(自由記載)は、「医療人として必要な人間性(思いやり、共感等)」が最も多く、次いで「地域の方とのコミュニケーション」があげられ、歯科医師の資質として必須である「知識」「技術」よりもコミュニケーション関連の言葉が多く抽出される結果となり、改めてコミュニケーション教育の重要性が示唆された(図1)。

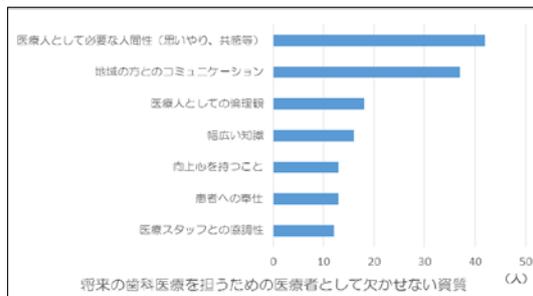


図1

## (2)研究者のエスノグラフィー研修

研究者らは、分担して複数回、離島(徳之島、与論島、種子島)に赴き、歯科診療所で一緒に診療を行い(参与観察)、離島の歯科医師に半構造化インタビューを実施して、「島医者の成長」すなわち環境によって人が成長するだけでなく、島という特殊な環境では環境自体を成長させていく側面があること、住民としての役割を担うことの重要性等を報告した。また市内の女性歯科医師にも半構造化インタビューを実施しており発表予定である。

## (3)トライアルプログラムの実施

参加学生は、3年生1名、4年生2名、5年生1名、6年生1名(男性2名、女性3名)であった。学生が観察記録に選んだ場所は、グループ討論中の講義室、百貨店の休憩所、バイト先の居酒屋、研究発表会会場、喫茶店であった。記載量は最少がレポート用紙2枚、最多が6枚であり、すべての観察記録は、登場人物の外見や行動および会話内容が記録されていたが、観察と自分の感じたこと(考察)が混在する記述も見られた。総じて、見ていない人間にも情景がわかるように書かれており、参加学生の記述能力は優れていた。参加学生のゼミ生は、観察記録実施後に歯学教員への半構造化インタビューを実施し、学会発表に至った。

研究の説明時に、青木らの他者理解尺度用紙(16項目、7件法、最高スコア112)(表1)を用いて測定したところ、5名の平均スコアは78であった。観察記録実施後にも調査を行ったが、スコアに変化はなく、仮説では他者理解尺度スコアの上方変化を想定していたが、1回のみ短期間の実施では、他者理解に変化をもたらすことはなかった。データ数が小さいこと、参加学生のコミュニケーション能力が元から高かったことが要因として考えられた。

項目	全く当てはまらない	やや当てはまらない	やや当てはまる	ほぼ当てはまる	ほぼ当てはまらない	ほぼ当てはまる	完全に当てはまる
	1	2	3	4	5	6	7
1 他人の気持ちがよくわかる							
2 他人の感情や態度を敏感に察知したい							
3 自分と違う他人に対して敬意を払うことができる							
4 他人の対人関係の持ち方に関心がある							
5 他人に対する気配りが善意である							
6 話し合いでは相手の気持ちを尊重するように心がけている							
7 他人のことがもたらぬと聞きたい							
8 「実際に何をしたかよりむしろなぜそうしたか」ということについて他人を判断したい							
9 他人の性格について、どうしてそのような性格になったかを探りたい							
10 自分と生半き方が異なる他人でも受け入れることができる							
11 他人がいろいろな問題についてどんな風に感じているか知りたい							
12 どうしたら他人の気持ちがよくなるかわかる							
13 他人の内面に関心がある							
14 他人についてよく理解している							
15 他人の性格や特徴をつかんで人付き合いがしたい							
16 他人のどこに価値があるかを説明できる							

表1

## (4)教育プログラムの開発と実施

研究分担者は、所属機関に低学年時から高学年にかけて一貫したポリシーを貫く科目群を配置した新カリキュラムを構築した。2年次科目「地域体験実習」では、学生が幼稚園および高齢者施設で参与観察し、毎回の振り返り記録を行い、実習最終日に全体発表で得られた体験や知見を共有した。

対人関係を測定するチェックリストを実習前後にトライアル実施した結果では、図2に示す他者理解度項目が実習前と比較し実習後にやや改善が認められた。

私は、他の人を尊重しようといつも心がけている。  
 私は、相手をわかろうとして他の人に関わっている。  
 私は、相手の話すことが私の理屈にあわないと相手を理解できない。  
 人と人は互いにわかりあえるものだと思う。  
 人を理解するということは、相手の秘密や心の底を知ることだと思う。  
 私は自分と違う考え方をするととても普通に付き合っている。  
 私は相性の悪い人とは付き合わないようになっている。

図2

実習後のアンケート調査では、幼稚園、高齢者施設の両施設ともに、「将来役に立つ」「学びが得られた」「コミュニケーション能力が上達した」の項目について、「とても思う」「少し思う」の回答が9割を超える結果となった。両者の比較では、高齢者施設の方が幼稚園よりも「とても思う」の割合が多かった。学生が日常で高齢者と接する機会が少ないことが要因として考えられ、「将来役に立つ」の回答が最多だったことから、本実習が多様な背景および年齢層の人々との関わりを持ち、他者理解の視点を獲得する重要な体験となったことが示唆された(図3)。

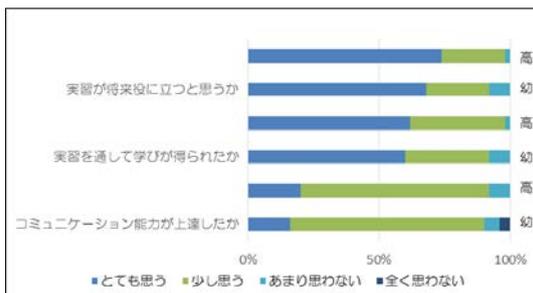


図3

<引用文献>

①青木万里：他者理解尺度の作成と活用実践，鎌倉女子大学紀要，18，39-51，2011.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計5件）

- ①大戸敬之，中山歩，作田哲也，岩下洋一朗，松本祐子，吉田礼子，田口則宏. 離島での総合歯科医師の成長プロセスについての1考察—島の1歯科医師の語りからの分析手法の検討—，日本総合歯科学会雑誌，査読有，10(1)，27-32，2018.
- ②中山歩，田口則宏. 鹿児島県離島における地域歯科医療の実態と改善策-アンケート調査の結果と考察-. 有病者歯科医療，2018.
- ③田口則宏，古川周平，吉田礼子，松本祐子，岩下洋一朗，中山歩，大戸敬之，作田哲也，地域歯科医療教育に求められるもの—プロフェッショナルリズムとの関連を見据えて—，日本総合歯科学会雑誌，査読有，9巻，11-18，2017.
- ④松本祐子，吉田礼子，中山歩，作田哲也，大戸敬之，古川周平，岩下洋一朗，南弘之，田口則宏：鹿児島大学歯学部における「地域歯科医療実習」—概要と学生アンケート結果—. 鹿児島県歯科医師会雑誌，査読無，128，9-11，2016.
- ⑤吉田礼子，患者中心の医療と医療面接. 新しい医学教育の流れ，査読無，16，39-40，2016.

〔学会発表〕（計6件）

- ①吉田礼子，古川周平，松本祐子，岩下洋一朗，田口則宏. 歯科医師の医療面接における非言語コミュニケーションが患者の評価に与える影響，第50回日本医学教育学会，2018年.
- ②宮本佑香，大戸敬之，作田哲也，中山歩，岩下洋一朗，松本祐子，吉田礼子，田口則宏. 歯学部教員へのインタビューの質的分析の経験，第37回日本歯科医学教育学会，2018年.
- ③中山歩，田口則宏，大戸敬之，南弘之. 地域に根ざして歯科医療を実践する人材の育成—3年次における歯科診療所実習—，第37回日本歯科医学教育学会，2018年.
- ④田口則宏，吉田礼子，松本祐子，岩下洋一朗，中山歩，大戸敬之，作田哲也，古川周平. 総合歯科の理解を目指した卒前学外実習プログラム，第10回日本総合歯科学会，2017年.
- ⑤大戸敬之，岩下洋一朗，中山歩，松本祐子，吉田礼子，田口則宏. 離島歯科医療実習が学生のその後に与えた影響，第48回日本医学教育学会，2016年.
- ⑥Furukawa S, Yoshida R, Matsumoto Y and Taguchi N: Evaluating dental residents' non-verbal communication during the objective structured clinical examination. The Association for Dental Education in Europe (ADEE), 2016.

〔図書〕（計1件）

田口則宏，歯科医学教育白書2017年版 第7章8その他（特筆すべき教育・学修法），日本歯科医学教育学会 白書作成委員会編集，査読無，109-114，2019.

〔その他〕

鹿児島大学歯学部カリキュラムマップ

<http://w3.hal.kagoshima-u.ac.jp/map-menu-w.html>

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：田口 則宏

ローマ字氏名：(TAGUCHI, norihiro)

所属研究機関名：鹿児島大学

部局名：医歯学域歯学系

職名：教授

研究者番号（8桁）：30325196

研究分担者氏名：吉田 礼子

ローマ字氏名：(YOSHIDA, reiko)

所属研究機関名：鹿児島大学

部局名：医歯学域附属病院

職名：助教

研究者番号（8桁）：60244258

(2) 研究協力者

研究協力者氏名：脇 忠幸

ローマ字氏名：(WAKI, tadayuki)

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。